

『トンテの孤児院の、子供たちの楽しそうな笑顔が忘れられない』

ミャンマーでの1番の思い出は、このことが1番に浮かんで来ます。

第26回ミャンマースタディーツアーに参加できた事が、私の人生にとって、今後も影響するであろう、素晴らしい感動と経験になりました。

参加の経緯は、私が所属します、株式会社アルティアセントラルでは、何年も前からこの近藤さん主催のツアーに、社員を研修として、参加させていました。

海外旅行には慣れている私ですが、一度も発展途上国に行ったこともなく、

いつも参加には躊躇していましたが、次回このツアーがあったら、絶対参加したいと、

心にずっと願っていました。願うこと、5年。久しぶりに募集があり、ついに、

社長より『行っていらっしやい』とのお言葉を頂きました。

ミャンマー、ヤンゴン空港に着いた時、名古屋の数十倍の湿気に包まれ、

まだまだ不安が拭いきれませんでした。

初めて足を踏み入れた国。知らないこともまだまだたくさんある。しっかり役目を果たせるだろうか。

私がこのツアーで果たしたいこと、

『ミャンマーの子供たちに英語を楽しんで学んでもらいたい。その手助けがしたい。』

その目的をしっかり胸に抱いて、ツアーの皆さんとの団結式に参加しました。

皆さん、素晴らしい方々ばかりで、ただただ、恐縮するばかりでした。

しかし、同僚の Michael と、Story Board(紙芝居)や Flash Card(単語カード)を使って、英語レッスンをしっかり行うことが、私達の最大の目的。『私たちががんばろうね!』と、意気込みを新たにしました。

2017年10月25日、まずは飛行機で、ヘーホー空港へ。そして、バスで、パオ族の住むニャンピン村へ移動。村に到着しましたら、村中の方々が、長い長い花道を作ってくださっていて、出迎えてくれました。何十人という規模ではなく、何百人がこの花道を作ってくださっている。この光景に目を奪われ、とても嬉しかったのと、私ごときがここを通過していいのかしらという戸惑い。しかし、村のみなさんが、『ミンガラバー』と手を合わせて、素敵な笑顔で、出迎えてくださるので、こちらも、同じように、『ミンガラバー』と、手を合わせ、初めてミャンマー語を使えた喜びと、ニャンピン村のみなさんとの交流に、とても感動いたしました。

こちらでは、ミャンマー豊友会で支援する保育園の開所式があり、建設された保育園の前には、大きなこいのぼりや沢山の風船あり、ニャンピン村の方々、おそらく全員で、お祝いをしていたのではないのでしょうか。保育園の中にも入れていただき、沢山の英語のイラ

スト、アルファベットの表など、掲示してあり、英語教育に熱心であることがうかがわれました。**Michael** が保育園長とお話しをしていて、とても楽しく英語で会話をしていました。保育園長も『アメリカからミャンマーに英語を教えに来てくれた!』と、喜んでくださって、光栄でした。

保育園の開所式のあとに、保育園となりに設営されたステージで、優秀な村の子どもたちの表彰式や、子どもたちの踊りの披露もありました。子どもたちが色とりどりの民族衣装を着て舞う姿は、とても愛らしかったです。

そして、いよいよ、ニャンピン村の子どもたちへ向けての、英語レッスンの番になりました。ステージから見える、子どもたちの顔が、みんなワクワクしていて、目をキラキラさせていました。**Michael** がもっと前へ来て。という合図にも、瞬時に反応して、沢山の子どもたちがステージのギリギリのところまで集まってきてくれました。**Michael** が読み上げる英語での紙芝居に、子どもたちも一緒に笑い、一緒に楽しんでいる。私も単語カードを見せて、一緒に発音をするときも、みんなとても元気に発音ができていて、とても上手でした。

あっという間の英語レッスンでしたが、英語は楽しんで学ぶことが一番大事なので、子どもたちに、今日この日の楽しい英語レッスンを、少しでも、これからも覚えていてくれたらと思います。

式典が終わると、村の方々が作ってくれた昼食をいただきました。初めて食する、地元の人たちが作るミャンマー料理。温野菜、野菜スープ、牛肉の煮込みなど。お料理も美味しく、さらにお手製のナンプラーがとても美味しく、ご飯が進みました。この村に来て、おもてなしの心が、素晴らしいとずっと感じていました。それほど、ミャンマー豊友会の支援が、彼らにとって、かけがえのないものであり、同時に、彼らなら、しっかりと保育園を子どもたちのために運営し、未来へはばたく国際人を村から作り出せるのだろうと感じました。私の従事している仕事の目的とリンクし、ミャンマーに来てよかったと嬉しくなった瞬間でした。

この翌日、2017年10月26日は、タウンジーへ向かう前に、次回、保育園設立の支援候補の2つの村のプレゼンテーションがあるということで、ツアー参加者も同席させていただくことになりました。こういう選考会に立ち会えたのも、貴重な経験になりました。1つの村は、人口も多いのに、保育園がなくなってしまい、支援が必要とのこと。もう1つの村は、保育園児が増えて、狭くなってきているとのこと。これだけを聞くと、保育園のゼロの村に、もう一度、保育園を設立して、将来に向けて、教育を充実させた方がいいと感じました。ゼロでは、いつまでもゼロのままであることが、問題であると思いました。

このあと、タウンジーにある、シャン州の優秀な生徒たちが集まった、教員養成学校を訪問しました。こちらでも、Michael と英語レッスンをしました。ここでは、Michael が、生徒たちが今後、教員になった時に役に立つ教え方を、生徒たちに見せていました。単語を覚えるにも、ゲームを取り入れた方が、効果的に覚えることができるからです。

生徒たちは、ゲームをしながら、楽しく学んでいたことが印象的でした。Michael が最後に英語で、『君たちが将来、先生になった時に、生徒の気持ちになって、楽しく英語を教えてくださいたら嬉しいです。』とっていました。Michael も、普段は外国人講師たちに、日本で英語を教える指導をしています。こちらミャンマーでも、ミャンマーの教員になる生徒たちに、英語を教える指導ができて、喜んでいました。このあと、職員室で、先生方とお話しをさせていただいて、みなさん、英語がとてもお上手で、やはり Michael の英語レッスン、見せ方、教え方に興味をもってください、Michael が色々質問に答えていました。

2017年10月27日は、ヤンゴンに戻り、午後には、トンテ孤児院に向かいました。どういう場所か、お話しは事前に聞いていました。このツアーの中で、一番訪問することを、楽しみにしていました。到着時間から、ちょうど子どもたちが食事の時間になりました。あまり見ることがない光景だったので、ある種の衝撃を受けました。まだまだ育ち盛りの子どもたちが、この量の食事で足りるのかなと。後で、食べたい子はお代わりが出来ると聞いて、安心しました。しかし、まだ親のそばで甘えたい年齢ではないのかなと思うと、小さい子を見ながら、涙が溢れてきました。親と一緒に過ごせることが、どんなに幸せか、親とご飯と一緒に食べることが出来ることは、どんなに幸せか。幸せは、いつもすぐそばにあるんだと、しみじみ感じました。子どもたちの食事が終わった後、英語レッスンの時間をいただきました。いつものように、Michael が、英語で呼びかけると、ステージの周りに、沢山の子どもたちが集まってきました。ボールで遊んでいた子たちも、遊びをやめて、こちらに駆け込んで来てくれました。Michael が小さい子どもたち、数名をステージに上げました。さあ、みんなで単語カードを持ちながら、一つ一つ、単語を発音していきます。英語レッスンを何ヶ所もやってきましたが、トンテの子どもたちが、一番声が大きかったかと思います。じゃんけんゲームもしました。途中ステージで泣き出す子もいて、私がお子を抱っこしながら、みんなと一緒に、英語の紙芝居を楽しみました。ここでの子どもたちの輝きは、太陽よりまぶしくて、夜空に輝く星たちよりも、キラキラしていました。私は一生、彼らの笑顔を忘れません。

英語教育に携わっていてよかった。そして、私が、入社当時から抱いていた夢が、叶った瞬間でもありました。『海外でも、英語を教えたい。』この夢を持ち続けていました。

『英語教育を通して、一人でも多くの子どもたちが、国際人として羽ばたいてくれたなら。』が、私の夢であり、私が今この仕事をする意味でもありますし、これからも、叶え続けていきたいと、思いをさらに深めることが出来た、ミャンマースタディーツアーでした。

近藤さんをはじめ、ツアー参加の皆様には、大変お世話になりました。そして、私の日常では、経験のできないことを、沢山経験させていただけたツアーでした。

このツアーに参加させていただけたこと、心より感謝いたします。

本当にどうもありがとうございました。

株式会社アルティアセントラル 斉藤千晶

